

彦根市総合教育会議 会議録要旨

|  |  |
|--|--|
| 平成 27 年度第 3 回彦根市総合教育会議                       |  |
| 日 時  | 平成 28 年 1 月 26 日（火） 午後 4 時 00 分～午後 5 時 00 分                                      |
| 場 所  | 彦根市民会館 第 2 会議室   |
| 出席者  | 彦根市長 大久保 貴<br>教育長 善住 喜太郎<br>教育長職務代理者 小松 照明<br>委 員 田口 佳子<br>委 員 本田 啓子<br>委 員 永濱 隆 |
| 議事次第<br>1 議題<br>(1) 教育行政大綱の策定について<br>(2) その他 |  |

【開 会】

- ・開会宣言
- ・市長挨拶

これまでの会議を踏まえ、現在、予算編成の最中であり、委員の皆様からいただいたご意見をできるだけ尊重しながら、これまで編成方針としてきた 3 つの柱を重点的に引き続き予算編成を進めてまいりたいと思っている。

本日は第 1 回、第 2 回と議論を深めていただいた彦根市教育行政大綱について素案をつくらせていただいたので、さらにご議論いただいて、ご承認をいただければと考えているので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

【議題 1】 「教育行政大綱の策定について」

○事務局

- ・前回内容についての説明

前回の総合教育会議では、教育委員会が策定されている教育行政方針をベースに大綱

を策定してはどうかとの考え方から素案をお示しし、基本目標や基本方針の 5 つの大きな柱など全体的な骨子につきましてはご了承をいただいた。

ただし、前書き等で市長の考え方が最初にあればいいのではないかと。タイトルが「彦根市教育行政大綱」となっているが、行政を取って「教育大綱」としたほうがよいのではないかと。全体的にもっとわかりやすくすればどうか。サブテーマを置くとよいのでは。あるいは、親力や家庭や地域との協力という観点から、彦根市全体で人を育てていくという観点をもっと入れてほしい、といったさまざまなご意見を頂戴した。

事務局では、第 2 回の総合教育会議でいただきましたご意見を反映するべく、一旦、前回の会議でお諮りした案を修正し、修正案について教育委員会の皆様方に十分に見ていただき、ご意見を頂戴した。

本日、提出している大綱案は、事前に頂戴したご意見を踏まえ、事務レベルで教育委員会事務局と市長部局との意見のすり合わせ等をさせていただいた上で作成をしているもの。

出された全てのご意見をそのまま反映させていただくことはできなかったが、ご意見の趣旨を踏まえ、できる限り案に反映すべく努力をさせていただいた。本日、改めてご意見を伺いたい。

・修正部分についての説明

修正点、変更点というのは、前回の会議でお示しした大綱案からの修正点、変更点という意味でご理解ください。

まず、前回は表紙がなかったが、表紙をつけさせていただいた。

次に、「彦根市教育行政大綱」という名称だったが、ここから「行政」を削除し、「彦根市教育大綱」という名称に変更した。

他の自治体の例を見ても、「教育行政大綱」としている例、あるいは「教育大綱」としている例、または「〇〇市の教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱」としている例などさまざまである。

また、前回の会議でも「教育大綱」としたほうがよいというご意見をいただいております。「行政」という文言が入っていると「行政機関のための大綱」と受け取られるおそれがあることから、市民の皆様にも一緒に進めていきたいと思いますという位置づけにするため、「行政」の文言を取った方がよいとの意見のご趣旨であった。

こうしたことを踏まえ、名称を変更したものの。

議事次第では「教育行政大綱の策定」についてというタイトルになっているが、この大綱案が決まれば、以降は「彦根市教育大綱」と呼ぶことになる。

また、ここに目標というか、大きな方針にサブテーマのような形でつけている。

次、冒頭の部分で、「はじめに」というページを加え、流れや、市長の考え方等について示している。

次に、2 ページ目の、趣旨、期間、こちらについての変更点はない。

次に、3 点目には基本方針があるが、今回はこの 3 の項目を「基本目標」としていた。そして、4 のところを「基本方針」としていたが、これを 3 が「基本方針」、4 を「基本目標」と改めさせていただいた。

今回は、大きな目標を達成するために幾つかの分野、方針があるという意味で、最初の大きなところに「目標」という言葉を使っていた。自治体によってどちらが先に来ているはさまざまだが、比較的「基本方針」や、「基本理念」といったものが先に来ており、大きな方針、理念等を達成するために幾つか柱立ての目標があるという場合が多いので、このように文言整理を行った。

この基本方針については、今回は「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、持続可能な社会を担う人づくりに努める」という形だった。こちらを後半部分だが、「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う人を育みます」と変更している。

これは「持続可能な」という言葉が、大きな方針を示す言葉としては少しわかりにくいのではないかというご意見などを踏まえたもの。

なお、前回会議の後に、事前に委員の皆様にお伺いした案では「次の時代を担う子どもたちを育む」となっていたが、子どもたちに限定してしまうことになるということが、学校教育だけではなく生涯学習を含め、それらを支える「全ての市民の方」という意味で「次代を担う人」としている。

また、この基本方針に係る説明文についても、この文言整理等により、「市民一人ひとりが先人のたゆまない努力によって築かれた郷土に誇りと責任を持ち、明日の彦根を拓く心豊かでたくましい人を育む教育をめざします。」と改めている。

基本目標の 5 つの柱については変更なし。ただし、文章が長くなっていたため箇条書きにして、見やすいように改めている。

最後に、わかりにくい用語の解説をつけたらという意見をいただいていたので、末尾

に「課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）」「持続発展教育（E S D）」「小中一貫教育」の3つの用語について用語の解説をつけている。

- ・「はじめに」の部分にもある考え方等についての市長からのコメント

#### ○大久保市長

私から、この「はじめに」の部分についてのコメント、また基本方針について少し補足の説明をさせていただきたい。

まず、基本方針の部分について、これまでご意見をいただいていたことを加え、「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う人を育みます」と、これは基本的には彦根市総合計画の理念をもとに基本方針として定めて、「市民一人ひとりが先人のたゆまない努力によって築かれた故郷に誇りと責任を持ち、明日の彦根を拓く心豊かでたくましい人を育てる教育をめざします。」とさせていただいた。

次に、「はじめに」の部分だが、私の考え方を出してはというご意見もいただいたところであり、これまで皆様からいただいたご意見を踏まえつつ、この部分で少し触れさせていただいた。

ご承知のように、近年はグローバル化あるいは高度情報化、人口減少や少子化、核家族化、経済格差の拡大・固定化などさまざまな社会環境の変化がある。これは国立社会保障人口問題研究所等の推計でも明らかになっているところであるが、本市の人口は現状のまま推移すると、30年後には10万人を割り込んで、本市における年少人口、0歳から14歳までの人口が、40年後には現在の1万6,000人から1万人を割り込むと見込まれている。また、20歳から24歳台の若者が市外へ転出する人数が、他の年代に比べまして圧倒的に多いという傾向も示されてきている。

こうした人口減少社会に対応するためにまち・ひと・しごと総合戦略をまさに現在策定をしているところであるが、この人づくりの部分は地方自治体にとって極めて大きな課題となっていると認識をしている。

総合教育会議の中で学力向上についてご意見を多くいただいたところだが、今後も社会・経済状況、人口構造の変化が見込まれる中で、将来を担う子どもたちを育むためには「豊かな人間性」、「確かな学力」、「健康・体力」から成る「生きる力」を育む学校教育を推進し、まさに今日のグローバル社会に対応した人づくりを行う必要があると考えている。

こうした人づくりを行って、質の高い教育を提供していくこと、これが子育て世代にとって大いに魅力となり、彦根に住み続けたい、あるいは住みたいと考えていただける環境をつくり出すというふうに思っている。

また、全ての市民が心豊かで生き生きとした人生を築くことができる生涯学習を振興することは、高齢化が進む中で今にも増して重要になってくると考えている。一人一人の輝きが見えるまちをつくりたいという思いの反映がここに生まれてくると思っている。

さらに、本市は先人から受け継いだ彦根城など自然や歴史資産に恵まれた重要な資産を次の世代に継承していく責任があると考えており、このまちに愛着と誇りを持つ人づくりを行うことが重要だと考えている。

こうしたことを実現していくためには、委員の皆様から多くの意見があったとおり、全ての目標に共通した事項として、学校だけではなく、家庭や保護者、地域がそれぞれの役割を果たし、連携して取り組んでいくことが必要不可欠であることから、今後も総合教育会議の場を通じて意見交換をしながら、教育委員会とこれまで以上に連携しながら取り組んでいきたいと考えている。

以上が「はじめに」の部分と基本方針の部分についての私の思いの説明となる。

#### ○事務局

大綱案について、委員の皆様方からご意見等をお伺いしたい。

#### ○小松教育長職務代理者

本日いただいた資料は、たたき台として作成した資料を我々に送っていただき、それに対して出した意見の内容をかなりフィードバックしていただいていると感じている。

その上で少し話しをさせていただく。

私が提案した一つの中に、「大綱」ということの中の何が言いたいのかということ少し体系のような形であらわしたほうがいいのではないかと。

他の市のものもいろいろ調べてられていると思うが、やはり教育行政方針というのはあくまで教育委員会がつくった内容であり、その上位に、今市長が思われる教育に対するその思いとか理念とか、そういうものを受けて市教育行政方針があって、その下に5つの柱があるのだというようなことの彦根市の大綱の考え方のようなもの。大綱の考え方はこうだということが、見てわかるような形であらわしたほうが私は全体がわかりや

すいのではないかと思う。

結局、大綱なので文字の羅列になるのは仕方ないが、その中でも少し見えるように、体系図というような、それだけを見たらある程度わかり、詳しいことは後ろ読んでいったらよいというものが欲しいと思った。

もう 1 つは、以前の資料から「持続可能な社会」というのを消去されている。この持続可能な社会というのは、非常にわかりにくいということで消されていると思うのだが、消されるのであれば、私が思うには、基本目標の中の(2) 持続可能な社会を担う人づくりを進めますという部分の下に、「持続発展教育」による云々という記載がある。この「持続可能な」というのが非常にわかりにくいので消去したが、ここだけに出てくることになっている。消すのであれば、全部この言葉は使わないとしたほうが読んだ者はわかりやすいと思う。

前段に、基本目標にもどこにも「持続可能」という言葉が出てこないのに、急にここに「持続可能な」というのが出てくることになる。「持続可能な」という表現は全部消していこうという方針だったのに、ここだけが出てくるという点が気になる。

#### ○大久保市長

1つ説明図のようなものを作ることは、可能だと思う。持続発展教育に関しては、これは前後の文脈があればわかりやすいのだが、急に出てくるとわかりにくい。

#### ○小松教育長職務代理者

以前は基本目標の中にあった。「グローバルな持続可能な社会」とか、「持続可能な社会を担う人づくり」とか、そういう言葉を入れていたが、多分わかりにくいから消されたと思う。一般の人から見ても確かにこの持続可能というのはわかりにくい言葉なので、私はそれを別の言葉にするということについてはいいと思うが、それであれば全てを変えるべきではないかと思った。

#### ○事務局

体系図については、他の自治体を幾つか見ていると、ツリー構造が 1 つ、あるいは 3 つあってというような複雑な体系になっており、わかりにくいということがあると思うが、今回のものはごく簡単な構図としているので、体系図までは作成していない。

○小松教育長職務代理人

簡単な構図になっているから、大綱に重みがない。少し重みとか、深みとか、そういうものをやはりつけたいと思う。そうであれば、やはりわかりやすく、体系を示すものがあれば、一目見てわかる。

中身そのものが教育行政方針から取ってきた大きな柱の 5 つということなので、中身がないと言えないのだろうが。

○事務局

もうひとつの持続可能な社会をという記載についてだが、これも「次代を」とか、そういう言葉に置きかえられるかなと思う。3 番の「子どもをみんなで」ということ、「次代を担う人づくりを進めます」というのはちょっと体系としてわかりにくくなってしまふかなということもあり、基本目標のところでは「持続発展教育」というのは出てくるので、基本方針のほうではわかりにくい言葉は外そうということと受け取っていた。

また、基本目標の項目の中には「持続発展教育（E S D）」ということを入れているので、基本目標においては「持続可能な社会を担う」という言葉を残すという判断をさせていただいた。

○小松教育長職務代理人

用語解説は作っていただいている。

○事務局

修正点 1 点、申し遅れたが基本目標の (1) 「子ども一人ひとりの力を伸ばし、「生きる力」を育みます」というところで 4 つ項目をあげている 4 つめの特別支援教育の充実や教育環境の整備・充実の後に小中一貫教育の推進に取り組みますということを付け加えている。

○小松教育長職務代理人

期間が 3 年間なので。これらの細かいものは要らないとはいいながら、やはり 3 年間で何かをやろうと。彦根市にとって重要な要素だという項目については、入れてもいいと思っているので、この小中一貫ということについては入れて欲しいとお願いしていた

のだが、きちんと反映していただいている。

○田口委員

前もって意見の提出をさせていただき、それである程度は修正していただいているが、趣旨のところか「はじめに」のところか、どちらに入れるべきかわからないが、彦根の現状と課題について。大久保市長の「はじめに」、ご挨拶にもあった一般的に言われているような社会状況について、彦根市はどうかと。どういったことに彦根はもっと力を入れないといけないとか、彦根独自のというような、何か現状と課題があったほうが彦根らしさが出ていいのではないかと思う。

それから、国体を控えているので、やっぱりスポーツ関連においても国民体育大会の滋賀県開催などを見据えて、さらなるスポーツ振興とその基盤整備に努めたいなど、そういったことも入れていただいたほうがいいのではないかと思う。

基本方針について、「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う人を育みます」ということだが、みんな「次代を担う人」だと思う。どういう人を育てるのかというところが必要になってくるのではないかと思う。

それから、基本目標のところは教育行政方針に何かとらわれているようなところがあるように思う。他と比較すると、例えば守山を見たのだが、まず「生きる力」を育みますというのがトップに出てくるのはどこも一緒である。

2番目には、教育環境を整えますというところ。「持続可能な社会を担う人づくりを進めます」というのは、「「生きる力」を育みます」の一つに入ってくるのではないかと思う。

3番目に来るのは、社会教育。「市民一人ひとりが生きがいをもって、心豊かに」、素案では4番目に上がっているところ。

そして、「歴史と伝統を生かし、文化の香り高い」。これは市民憲章から取ってきているので、それが入っているのだと思うが、「「生きる力」を育みます」の中に入る部分が「持続可能な社会を担う」というところに入ってきたりしている。「地域の子どもをみんなで守り育てます」という項目については、この地域の子どもをみんなで守るというのは、やっぱり子どもの環境のところが入るもので、子どもの環境を整えるところには、「教員の資質向上」とか、「いじめのない学校環境」とか、そういったものが入ってくると思う。



そのように、大きな柱が3つか4つあって、そこからまた施策としての幾つかがあつてというように進めていかないと、膨らみもない状態で、大綱というには余りにも容量として少ないように思う。

だから、一般市民の方がご覧になって、いじめについて彦根市がどういうことを行っているのかとか、そういったところを見たいと思っても、これだけの内容であればわからない。

やはり策定した段階ではホームページにも出さないといけないと思うので、もう少し柱や施策については見直す必要があるのではないかと思います。

#### ○永瀆委員

原案からは大分整理されているという印象は皆さんと同じように感じている。「はじめに」の部分の表現も、やわらかい感じになっているところはよいと思う。

私は他の市町村等とはあまり詳しくは比較検討はできていませんが、個人としてはそれぞれの委員の考え方が一緒ではないので、表現の仕方に差は出てくるのは、今細かくとか、理解できないとか言われるところもあると思うが、余り全てを入れ過ぎるとごちゃごちゃになってポイントがぼやけてしまうことも考えられる。

ただ、具体的に言わないと、それぞれの市民にはわかりづらい点もある。一長一短があると思う。

どちらがいいかという、個人的にはシンプルなほうがいいかと思う。

持続可能な社会、(2)番の部分については今も言われていたが、これを(1)番にするほうがよいのではないかと私も思っていた。

ただ、「はじめに」で家庭のほう、前も述べたように、家庭、保護者、地域の連携を市長の言葉で入れていただいているが、この大綱の中で少し薄いという気はする。

#### ○本田委員

あれもこれもとなると、大綱という文言からして、私はやはり教育基本法を受けて、それをもとに定める大綱なので、本当に基本的なところがきっちりと示されるべきだと思っている。

細かい言葉一つ一つを見ると、例えば「持続可能な」や、E S Dのことだと、新聞の記事にもなったことがあるが、この言葉はなかなか日本人にはなじみにくい。ただ、今

一生懸命浸透させている状況だと言っている学者の方もおられ、そういったこれまでの取組でE S Dも大分浸透しつつある言葉になってきているとは思う。

しかし、市民にとれば、やはり次代をつくるとか、次代を担うとか、そういう言葉とE S Dの推進が出てきたことと、同一にするところに意義があると思うので、やはりそういうことを整理する必要があるような思いがする。

それから、今「はじめに」のところに市長が書いておられるのだが、例えばグローバル化とか、少子化とか、家庭や地域の教育力の低下とか、そういうこと全てが本当に教育環境を物的なことだけでなく、いろんな意味で大きく影響していると思う。だから、前回のときにも家庭教育的なことがあって、学校教育もあって、地域の教育もあってという話になっている。ここにある人間関係の希薄化とか、そういうことが全てそこに結びついているし、もっと基本的な家庭教育といったところがもう少し強調されてもいいのではと思っていた。

他のところについては、彦根市の計画もなく、本当に出発する時点で産みの苦しみのようなところもあり、その都度、見直しのようなこともこれからやっていかなければいけないと思う。

#### ○田口委員

「はじめに」の真ん中のところに「将来の彦根を、そして将来の日本を担う子どもたちを育むためには、「豊かな人間性」、「確かな学力」、「健康・体力」からなる「生きる力」を育む学校教育を推進し」というのは、学校教育だけではないと思う。生きる力を育むということがそのように捉えられかねないのではないかと思う。

彦根市総合計画の基本計画では、小学校、中学校教育の充実というところでこういう文言が使われているわけだが、ここには学校教育だけではなく、もっといろんな要素があると思う。

#### ○善住教育長

担当は非常に悩みながら、言葉一つ一つをご意見も伺って悩みながら作っていたプロセスを私も見ていたので、例えば「持続可能な社会」という言葉へのご指摘について。確かに難しい言葉で、これは後ろに用語集の持続発展教育というところで書いてくれている。わかりやすい言葉に置きかえると、「環境・貧困・人権・平和・開発等現在社会

の壁を自らの問題として捉え」という、こういう説明になっていってしまうので、なかなか簡単に置きかえることが難しい言葉を我々は教育指針の中でも使ってきたというところが確かにあるが、なかなか置きかえることが難しく、言葉の整理にかなり苦心してくれたというところがあると思う。

それから、やはり大綱であるので、具体的に事業名として取り上げているようなものについて、ここまで大綱の中に一つずつ書いてある。これは書いたけれども、こっちは書いてないと。事業名、この事業はこっちより大事だし、こうなのはどうなのかというようなこともあって、やはり大きな方向性を示すというのが大綱の趣旨であろうということなので、そういう面でかなり苦心をして、できるだけ一般的な言葉に置きかえながら、余りに特定の施策というのを示し過ぎると、他のものを書けない状況になるということとは避けたような形の表現になっているように思う。

ただ、市長がこういう形で示していただいたことが教育委員会の学校教育の指針をベースに教育を進めていくというようなことに対して、市長から指示をいただいていることであるとも思うので、私も細かな気になるものがないわけではなく、ご指摘いただいているような細かな部分はあるが、全体の方向としてはこのような大綱のまとめ方でいいのではないかと判断している。

もし、細かな言葉の修正がまだあるのであれば、先ほど田口委員がおっしゃったような「生きる力」を育むにあたっては学校教育だけではなく、例えば家庭教育も大切な役割を持つという意味合いでおっしゃっていただいたと思うが、そういうことについて修正がかけられるのならば、もう少し委員のご意見を聞きながら、これに修正を加えていくという形でもいいのではと思う。全体図についても、別にあったら悪いわけではないと思うので、基本方針以下に樹木図が入っても、それはそれでよいと思う。

これをこのままで承認しようというのではなくて、もう少しこれをよいものにするという形でご意見賜ったらどうかと思う。

#### ○大久保市長

本日は、大綱案をご承認いただくということが目標だったが、少し文言修正は必要だと。ただ、骨格としてはこれでよいということではいか。骨格としては。

この会議は、行政と教育委員会との会議ということで、より市民の目線に立ったものという視点から、できるだけ教育行政の中で使われている言葉は平たく伝わるようにと

いう工夫もあって、こういう構成になったものでもある。

大綱そのものは、これがずっと変更できないものではないので、基本的な骨格はこういうものにさせていただいて、文言の部分については私も個人的にも気になるところはあるので少し修正をさせていただいていきたいと思うが、基本的なラインとしてはこの形でよろしいか。

○小松教育長職務代理者

市長に確認したいのだが。

「はじめに」で書かれた市長の思いだが、この中で市長が教育に対して一番言いたいことというのは、どこに出ているのかと思い、読んでいた。

下のほうは教育大綱で、もう既に教育委員会で決められたものがある。この上は、あと一般的なこと。そうすると、やはり私は、市長の一番言いたいのは、この将来の彦根からずっと子どもを育むための「豊かな人間性」、「確かな学力」、「健康・体力」と、「生きる力」と。それとキーワードは「グローバル」だろうという、ここところが市長の一番教育に対する言葉なんかと思ったのだが、そこでよいか。

○大久保市長

要するに、この「将来の彦根を」からだと思う。この部分。

彦根の特徴的なものはやはり文化遺産等々、今日までの歴史があり、そのことによつてつくられた地域社会、歴史、伝統等々の環境の中で、教育、行政が行われていくということの特徴的な部分をより生かしていきたいと。さらにグローバル化等々世界の状況が変わる中で、広い視野を持ちながら、個々の自立した「生きる力」を育てていきたいという思いがこの中に入っているということ。

○小松教育長職務代理者

そういう市長の強い教育に対する思いを 1 行では言えないと思う。一つのまとまった行にして、やっぱりこれだけの思いが彦根市にはあり、それから教育委員会の方針ができ。さらに 5 つの柱ができ上がっていると。それが今の大綱の大きな考え方だということ。先ほど体系と言っていたのはこのこと。

市長の一番言いたいこと、それが今言われている彦根の文化的なもの、人のそうい

う人間性的なこと、それとグローバル。そういう幾つかのキーワードをまとめて、そこからこの大綱は出発しているのだと、そういう表し方ができたらいいと思っていた。解説版でも、ポンチ絵図でも、そういったものでもよいので。

#### ○善住教育長

この間、城西小学校の発表会とかがあった。城西小学校はユネスコスクールでE S Dを積極的に推進していただいているところなのだが、そののスローガンは“Think Globally, Act Locally (シンク・グローバリー、アクト・ローカリー)”で、世界を考えて実際に具体的に足元から行動する。この文章そのものが将来の姿。だから、上の3行が“Think Globally”で、皆さんグローバルにやっていて、下は彦根という地域を足元に踏まえてやる、私はこのようになっていると思っている。

その“Think Globally, Act Locally”というのが、実はE S D教育を一番簡単に言っているような言葉であり、そういう意味で、私は少し難しいかなと思った。「持続可能な社会」での人づくりというのは、“Think Globally, Act Locally”に動ける、そういう人をつくることだと考えている。これは、学校教育指針の中に入っているような考え方だろうと思うが、それについてこれまで彦根がやってきたことをここへそのまま使っていただいでいくというような意味合い。

ただ、これを易しい言葉にするのは本当に難しい。一応構造的にはそういうものだと私は思っている。

#### ○田口委員

今の状況として、家庭教育、家庭で子どもたちを育てるという力が非常に弱い状態にあると思う。

教育行政方針には家庭のそういった家庭教育の力をどうするかということは出てきていない。これは社会教育の中で何とかしないといけないことなのだが、婦人会や、そういうものが解散の状態になって、組織として社会教育としての体制としての呼びかけというのはなかなかできなくなっているようで、難しい面があると思うが。

家庭でしつけないければならないようなことを学校でやらなければならないようなことになってきているような状況もある。なので、ここでしっかりと学校の役割と家庭の役割と、学校教育、家庭教育という形にしてもよいのだが、そして地域の役割。それで、

最後にその 3 つが連携するという形。そういうものもやはり入れておいていただいたほうが市民の方がご覧になった際、家庭教育はやはり大事なのだと思ってくださるのではないかと思った。

これが細かいこととして捉えられるならば、大綱としては入れなくてもいいのではないかというご意見もあるかもしれないが、他市ではこれについてしっかりと位置づけされているので、やはり大事なことかと思う。

#### ○事務局

言葉の使い方や、体系図的なものを大綱の中に入れて、その位置づけがよくわかるようにすればどうか、家庭教育の大綱への記載等、さまざまなご意見を頂戴した。

また、教育長からは、具体の事業策を入れることについての考え方や、あるいは全体の教育大綱の方向としてはこういう形でいいのではないかというご意見も頂戴した。

本日いただいたご意見をもう一度しっかりとまとめさせていただき、本日お示しした大綱（案）について修正させていただきたい。

修正後の日程、手続等々については、後日まとめてご連絡等をさせていただきたいと考えているので、よろしく願います。

#### 【議題 2】 その他

##### ○事務局

議題（2）のその他について。

今後の総合教育会議の持ち方、大綱策定以降どのように運営していくのかというような大きな話について、説明をさせていただく。

来年度以降については、今年度の反省点を踏まえ、協議していただく事項を委員の皆様にお諮りした上で、年間の協議や、意見交換のテーマを設定したいと考えている。

これまでもご意見をいただいている学力向上や、学校や地域との連携、いじめや不登校問題などがテーマとなってくると考えているが、できればペーパー等でやりとりするのではなく、教育委員会会議の終了後等のお時間をお借りし、直接各委員の皆様から内容をお聞きする形で、協議事項を幾つかいただくと共に、その中でどれを取り上げるかを決定するような形としたいと考えている。

その上でまた、総合教育会議で皆様のご意見をお伺いしながら、一定のテーマの設

定ということについても考えていきたい、ご相談させていただきたいと考えているのでご協力をお願いします。

ただ今の説明についてのご質問等あればどうぞ。

(特になし)

○大久保市長

これまで3回開催させていただき、なかなか勝手が違う感じがしている。行政サイドだけではなく、教育委員会の事業の取り組みというのを肌で感じて、いい経験をさせていただいているように思っている。

いずれにしても、今後また十分に調整を図りながら、それ自体もこの会議の趣旨であろうと思っているので、今後も皆様のご協力をいただいて総合教育会議を進めさせていただきたいと思っている。

こういうことを重ねていきながら、また細かい具体の事例案等、いろんな意見交換ができればと思っているので、よろしくお願ひしたい。

本日は長時間に渡り、ありがとうございました。

【閉 会】